

令和5年度 経営情報学科

自己点検・評価報告書

令和6年3月

富山短期大学 経営情報学科

令和5年度 経営情報学科 自己点検評価報告書

1. 建学の精神（他部局で記載のため省略）

2. 地域・社会貢献

(1) 現状

① 地域理解の増進

- ・経営情報学科の卒業生が店主を務める「朱雀堂（滑川市瀬羽町 1835）」と連携した古本市を開催した。（詳細は富山短期大学 HP に記載）

② 公開講座等の充実

- ・県民に役立ち、本学の特色をアピールできる魅力ある公開講座の積極的実施と、そのための効率的・効果的な PR

地域連携センターが統括する「富山短期大学公開講座」に注力し、4 講座を担当した。（詳細は「令和5年富山短期大学地域連携活動年報」に記載）

(2) 課題

公開講座をはじめとする各種地域連携事業について、地域連携活動が更に伝わるよう、可視化や情報発信の強化が必要である。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

- ① 公開講座：多様な専門分野を有する教員の特徴を生かし、開講時期や内容の見直しを継続していく。
- ② 継続して競争的資金を獲得しながら、地域の課題解決を図る研究を推進していく。
- ③ 学生の「いみず学生アイデアコンテスト」等への参加を促す。
- ④ 「大学コンソーシアム」は実施時期等を再検討して、単位互換科目を提供する。

3. 教育目標

(1) 現状

- ① 学科の教育目的及び目標を建学の精神に基づき確立している。

（詳細は学生生活のしおりに記載）

- ② 学科の教育目的及び目標を、ホームページや「学生生活のしおり」に記載し学内外に表明している。

(2) 課題

学科内で教育目的及び目標を、学生へ周知する機会が限られている。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

入学時および各学期初めのオリエンテーションで、学生への教育目的・目標の周知を継続していく。

学生アンケートや授業改善レポート、Web シラバスのアンケートなどを利用して、学生の現状を踏まえた教育目標の点検・見直しを実施していく。

4. 学習成果

(1) 現状

- ① 学習成果（能力基準別到達目標）を、建学の精神および学科の教育目的・目標に基づき定めている。
- ② 学習成果を、「学生生活のしおり」や Web シラバスで各科目に「学修成果別評価基準(ルーブリック)」として記載し、学内外に表明している。
- ③ Web シラバスシステムを活用し、学生の学習成果をレーダーチャートなどに可視化して定期的に点検し、各教員が学期ごとに「授業改善レポート」を作成している。

(2) 課題

学習成果を学生自身が実感出来るような取り組みを図る必要がある。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

学生アンケートや授業改善レポート、Web シラバスのアンケートなどを利用して、学生の質問・疑問に適時・適切に教員が回答するよう徹底を図る。

5. 三つの方針

(1) 現状

- ①ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシーを一体的に策定し、「学生生活のしおり」や「募集要項」に記載して、内外に表明している。
- ②各教員は、これら3つのポリシーを踏まえた上でシラバスを作成し、教育活動を展開している。

(2) 課題

新カリキュラム（新教育課程）導入にあたり、カリキュラム・ポリシーとの整合性を確認する必要がある。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

カリキュラム・ポリシーについて、整合性の確認を行った。
今後も変更の必要に応じて見直しを検討する。

6. 内部質保証

(1) 現状

Web シラバスシステムを活用し、授業ごと及び学期ごとに「授業アンケート」を実施して、日常的に自己点検・評価を行っている。

(2) 課題

毎時の授業アンケートの提出を徹底できていない。継続的な自己点検評価の方法を工夫する必要がある。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

授業アンケートでの満足度の向上を目指す。

学生アンケートや授業改善レポート、Web シラバスのアンケートなどを利用して、学生の現状を踏まえた自己点検・評価を検討している。

7. 教育の質

(1) 現状

① シラバスの点検と改善

教務委員が経営情報学科のカリキュラム・ポリシーに沿って、各教員の Web シラバスのチェックを実施し、現時点での基準に対応していないものは修正を依頼している。

② 授業改善レポートの作成

「授業アンケート」を踏まえて、学修成果の到達度・変化の把握と、その要因の分析について、各教員が授業改善レポートを作成している。

(2) 課題

複数教員による担当科目（いわゆるオムニバス科目を含む）の共通理解がまだ不十分である。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

シラバスの精緻化と授業アンケートでの満足度の向上をめざす。

8. 学位授与方針

(1) 現状（卒業認定・学位授与方針の点検・見直しの状況）

学則第2条の2「学科の目的」に照らし点検を実施したが、特に問題はなかった。

(2) 課題

特になし。

- (3) 特記事項
特になし。
- (4) 改善計画
社会情勢や企業団体のニーズにマッチしているか否かを毎年点検する必要がある。

9. 教育課程編成・実施の方針

(1) 現状

① 教育課程の点検・見直し状況

「新学習指導要領・情報活用能力の育成・ICT活用」により高等学校では「情報Ⅰ」が共通必修科目となり、全ての高校生が、プログラミングやネットワーク、データ活用について学習する時代が始まった。これに合わせ、本学科でも「情報科目」の強化・充実を図る改革が必要となった。また、短期大学設置基準の改正により、演習科目の単位を2単位にすることが可能となった。これらを踏まえ、各分野の専門科目だけではなく教養科目も含めて総合的に、本学科の教育課程表を大幅に改定し、新カリキュラムを作成した。

前年から引き続いて、デジタル化技術が加速する社会を見据え、教育課程編成方針(2)ICT リテラシー・専門基礎教育について点検を実施し、DS (データサイエンス) やDX (デジタルトランスフォーメーション) 教育を取り入れる。

② 非常勤講師・学生等との教育課程懇談会の実施状況

懇談会は実施していないが、新カリキュラムへの対応を含めた情報交換を、関係の非常勤講師と学科長や教務委員との間で密に実施している。

(2) 課題

DS (データサイエンス)、DX (デジタルトランスフォーメーション) 教育を発展させる。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

新カリキュラム (新教育課程表) に不備がないか、不断の見直しを行っていく。デジタル教育について全学との歩調を合わせながら、学科内でも徹底する計画である。

10. 幅広く深い教養

(1) 現状

- ① 短期大学設置基準に則り、幅広く深い教養を培うよう教養科目を編成し、実施体制も確立している。(詳細は学生生活のしおりに記載)
- ② 教養科目についても「授業アンケート」を実施してその効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

- ③ 専門科目との関連性を踏まえながら総合教養科目、外国語・体育科目など教養教育の改革・再編を図っている。
 - ④ 教養演習では、読解力、不理解箇所の調査力、内容の整理力、資料の作成力、発表のプレゼンテーション力というビジネスパーソンが必要とする基礎的能力の習得を目的とした教育を行っている。具体的には、各教員が少人数制によるきめ細やかな個別指導を行うことにより、学問修得の面だけでなく、ディスカッションやコミュニケーションを通じて、社会常識を確認するための人間的成長の面についても習得を目指している。
- (2) 課題
- ① 改革・再編した教養科目の、専門科目との関連性やつながりを確実に新カリキュラムに反映させる。
 - ② 数理・データサイエンス・AI に関する基礎的な理解や関心を高める教養科目（*新設）を軌道に乗せる。
- (3) 特記事項
特になし。
- (4) 改善計画
- ① 令和 6 年度教育課程表を大幅に改定し、新カリキュラム（新教育課程表）を作成した。
 - ② 数理・データサイエンス・AI に関する基礎的な理解や関心を高める教養科目を、次年度以降も軌道に乗せる。
 - ③ 今後も必要に応じ、学生の幅広く深い教養の涵養に向けた各種改善を図る。

1 1. 職業教育

(1) 現状

① インターンシップの取り組み

本年度も夏季休暇を利用し、約 50 の企業団体に、1 年生のほぼ全員が参加して 5 日間～10 日間就業体験を行った。また、12 月にはその成果をプレゼンする学内発表会も実施し、体験の情報共有とプレゼン力の養成を図った。

② インターンシップの効果を高めるための取り組み状況

企業団体からの評価票を学科教員で共有し、就職指導等に活用している。

(2) 課題

「日誌」や「評価票」の電子化（ペーパーレス化）

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

(2)について、企業団体と交渉を進めており、「評価票」については約9割の企業が了解済み。

12. 入学者受入れ方針

(1) 現状

安定的な学生数を確保するため、多様な入学試験を実施している。推薦の指定校枠区分については高校側の要望なども含め柔軟に対応し早期確保を目指している。また、一般選抜、共通テスト利用型についても文系・理系問わず受験生が受験しやすい幅広い科目選択を実施している。

(2) 課題

18歳人口の減少に伴う受験者数の減少対策、4年制大学志望が強い高校生への短大の魅力発信、県内受験生の首都圏への流出の防止などが必要である。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

次年度も安定的な学生確保ため、データ分析とあわせて、推薦の指定校枠区分について柔軟な対応を図り、入学定員の確保につなげていく。
また、拡大した入試区分で広い層の受験生の受け入れを行いつつ、オープンキャンパスで短大の魅力を発信する。

13. 明確な学習成果

(1) 現状

① 「能力基準別評価方法」、「ルーブリック」、「シラバス」の点検と改善

教務委員が経営情報学科のカリキュラム・ポリシーに沿って、各教員のWebシラバスのチェックを実施し、現時点での基準に対応していないものは修正を依頼している。

② 学修成果の到達度・変化の把握とその要因の分析

「授業アンケート」を踏まえて、学修成果の到達度・変化の把握と、その要因の分析について、各教員が授業改善レポートで実施した

(2) 課題

学科内で学科FDを実施する機会が多くはない。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

① 「シラバス」の改善、② 「学生アンケート」による学修成果の分析を継続する。

14. 学習成果を測定する仕組み

(1) 現状

- ① 学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みとして Web シラバスシステムがあり、教職員により活用がなされている。

(詳細は教務部で記載のため省略)

- ② 学生アンケートや大学編入学率、就職率などのデータを活用し、学習成果を測定している。

- ③ これらのデータ等をもとに評価した学習成果を学内外に公表している。

(2) 課題

授業評価アンケートや学修行動・生活調査などの回答率が低くならないよう工夫が必要である。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

各種アンケート調査の回答率を維持・向上させるための方策について検討し、その結果を踏まえ、学習成果を測定する仕組みの点検・見直しを検討する。

15. 学習成果を可視化する指標

※14 と同じ (短期大学評価基準の改訂により、14 と 15 は 1 つに集約されている。)

16. 卒業後評価への取り組み

(1) 現状

- ① 全卒業生の就職先にアンケートを依頼して評価を聴取している。得られた情報は、就職支援センターと経営情報学科教員全員で情報共有を図り、ビジネス実務演習の授業にて教育活動の改善を推進している。

(訪問記録は就職支援センターと経営情報学科事務室の両方で集約保管、集計抜粋資料を最終ページに掲載)

- ② 学生の就職活動の状況や内定取得の最新情報は、各ゼミナール担当教員が主となり学科共有ドライブにて管理し情報共有を行っている。またこの学科共有ドライブは就職支援センターも閲覧・管理できるシステムであり進路決定に困難であると想定される学生の早期発見と支援に活用している。

(結果は経営情報学科 NAS にて保管)

(2) 課題

- ① 今後の就活生のために受験報告書の提出率向上を図る。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

- ① 進路決定届の裏面を受験報告書とする。

特になし

(4) 改善計画

- ① 科内で連携し、学生が希望する進路に合わせた柔軟な指導方法を提示する。
② 就職支援センターとの連携強化に努め、ハローワークへと繋げる。

17. 教育資源の有効活用

(1) 現状

- ① シラバスに示した成績評価基準によって学習成果の獲得状況を評価している。
この点は、Web シラバスシステムの成績入力フォーマットにより、確実に担保されている。
- ② 学習成果の獲得状況については、成績表や学生アンケート、就職・資格関連データ等により適切に把握している。
- ③ 学生による授業評価については、毎授業実施する授業アンケート並びに半期ごとに実施する授業評価アンケートにより行われ、特に後者についてはその結果を授業改善レポートにまとめ、実際の改善に活用している。
- ④ 授業内容について授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を日常的に図っている。全学科教員が参加する教養科目に関しては、特に緊密な連携を行っている。
- ⑤ 教育目的・目標の達成状況について、各種学生アンケート結果や、成績関連資料、就職・資格関連資料等により、客観的に把握・評価している。
- ⑥ 学生に対する履修・卒業に至る指導については、学期始めのオリエンテーション等を通じて全体的に、また教養演習や専門演習さらにはゼミ担任による面談等を通じて個別的に、実施をしている。

(2) 課題

編入学志望者を主対象とした複数の科目に関して、よりきめ細やかな教員間の連携が求められる。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

編入学志望者を主対象とした複数の科目に関して、担当教員間で協議を行い、授業内容や実施体制の調整を行ない、明確な役割分担を通じて、編入学指導の強化を行った。

18. 学習支援

(1) 現状

- ① 成績評価や各種学生アンケート結果の学生へのフィードバック
授業科目の履修生成績評価や、各種学生アンケート結果などのデータ収集とフィードバック方法、及びアフターケアの充実については、各教員が授業改善レポートで点検し、改善のための検討を行った。
- ② 成績開示と履修指導の実施及び個別指導の充実
 - ・ 学生の成績は GPA 評価を付加した資料を学生に開示し、それを基にゼミ担当教員が学生の個別指導を行っている。
 - ・ 出欠管理を厳しく行い、教員間で学生指導の状況を共有している。4回以上欠席者に対しては保護者へ郵送で連絡を行う。
 - ・ 成績不振学生に対する個別指導として、保護者懇談会(大学祭期間中)を実施し、保護者への現状理解と情報共有、当該学生の意識確認などを行った。
- ③ 授業外学修時間を増やすための授業方法等の工夫
予習・復習を必要とする授業（反転授業）については、Web シラバスを利用して実施している。その効果は、各教員が学生の成績や期末授業アンケートなどを基に授業改善レポートで検証を行っている。
- ③ 図書館設備・環境の改善
 - ・ 各専任教員が自分の専門分野の中で特に学生に読んでもらいたい本を選定し図書館に揃えた。経済・経営・会計・簿記・ビジネス実務・図書館分野の本の良書を取り揃えたことは学生の更なる勉学に役立つと期待される。
 - ・ 教室の一部に新聞・雑誌の閲覧コーナーを設けている。新聞は 6 紙用意されており、記事の読み比べを推奨している。
- ⑦ 入学前指導の実施内容
入学前セミナーで学科長および担任による入学までに習得すべき課題について説明を行った。
- ⑧ 学科独自の個別的な学習支援の取組
各教員がオフィスアワーを利用し、学生の個別対応を実施している。また、資格関連や編入学などの個別対応を長期休暇・休日・時間外などを利用して実施していることもある。

(2) 課題

- ① 成績不良であっても改善に努める学生と、そうでない学生の二極化が生じている。
- ② 学科独自の個別的な学習支援を行うため、長期休暇・休日・時間外などを利用せざるを得ない状況である。このままでは担当する教員への負荷が大きくなるため、効率的かつ効果的な個別対応の方策を検討する必要がある。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

- ① 今後は成績不良者への補習を検討しなければならない。
- ② 1年次の「大学教育と学修」は専任教員全員がオムニバスでコマを担当している。この科目の指導を通して図書館利用を促すと共に、より学生が利用しやすい図書館のあり方や新聞の活用策を提案していく。

19. 生活支援

(1) 現状

- ① 学生部・健康支援センターと連携して、学生の生活支援を積極的に行っている。
(詳細は学生部で記載のため省略)
- ② 学生への支援・相談は主にゼミ担当が担当している。

(2) 課題

- ① カウンセリングを必要とする学生が増えている。
- ② 母子家庭など経済的支援を必要とする学生が増えている。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

学生部・健康支援センターとの連携を密にして、支援を必要とする学生に対して適切かつ迅速に対応する。

20. 進路支援

(1) 現状

- ① 本学に届いた求人票は、本学ホームページ(Web)と紙媒体(学内2か所)にて閲覧できるようにしている。
- ② 近年増加する就職支援サイト(マイナビ・リクナビ等)の使い方や登録方法を指導し、早期に活動を開始するよう促している。
- ③ 企業へのエントリー方法や履歴書の書き方、そして礼状の出し方までの一連の就職活動は、進路ガイダンスにて一斉指導を行っている。
- ④ 学生の個別支援は各ゼミナール担当教員が行っている。少人数であるため、学生一人ひとりの資質に合わせた指導が出来ている。
- ⑤ 就職活動に困難が生じている学生に対しては、就職支援センターと連携し、個別指導が出来る体制を構築している。

(2) 課題

就職活動の困難な学生は、なるべく早く個別対応へと切り替え、ハローワークの支援を受けながら、企業への個別アプローチを行う必要がある。

(3) 特記事項

特になし

(4) 改善計画

- ① 科内で連携し、学生が希望する進路に合わせた柔軟な指導方法を提示する。
- ② 就職支援センターとの連携強化に努め、ハローワークへと繋げる。

21. 健康支援

(1) 現状

障がいのある学生等に対する個別支援の強化

- ・入学前に申請があった場合、健康支援センターから各学年担任に連絡される。本人の意思を確認し、周知する範囲を厳守しプライバシーの保護に努めている。
- ・今年度は「合理的配慮提供の義務化に向けた教育環境の整備について」と題し健康支援センターが主催した講習を全教員が受講した。改正障害者差別解消法の施行に先立ち、合理的配慮に関して学びを深めた。
- ・学年はじめに健康支援センターから学生の健康情報の提供があり、それに基づいて学生への対応には注意を払っている。

(2) 課題

学習障害や発達障害を抱える学生の増加に対する対策を講じるべきと考える。基本方針として健康支援センターとの連携にて対応しているが、学修や就職支援等のゼミ担任の負担が大きいと言える。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

環境整備で対応できる支援策は速やかに実施し、学習障害や発達障害を抱える学生に対しては健康支援センターとの連携を強化していく。

26. 教育研究活動

(1) 現状（学科教員の教育研究活動の概況）

①教育活動

授業アンケートによる総合評価値は、4点満点中、3.08以上となっており、学生の満足度は概ね良いと判断できる。

②研究活動

富山短期大学紀要をはじめ、学外でも学会等に研究成果を発表し積極的な研究活動を行っている。

(2) 課題

配慮学生が年々増え、その指導に要する時間増により研究活動等に割ける時間が

減る傾向にある。よって、配慮学生指導の効率化が課題である。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

配慮学生の卒業、及び出口（就職）確保が率的にできるよう、学科内で情報を共有し対応方法を体系化していく。

令和5年度富山短期大学卒業生【令和5年3月卒】の事業所・企業等
就職先訪問 報告書

経営情報学科

調査卒業生数 65名

評価項目	A (良い)	B (やや良い)	C (普通)	D (やや悪い)	E (悪い)
1. 礼儀・基本的マナー	68%	14%	16%	2%	0%
2. チームワーク [チームで働く力]	59%	25%	11%	5%	0%
3. アクション [前に踏み出す力]	36%	32%	22%	10%	0%
4. シンキング [考え抜く力]	27%	30%	35%	6%	2%

5. その他、応対者のコメント
・明るく受け答え出来、前向きな取組み姿勢も備えており良い社員を迎えることができた。
・社会人の自覚が高く笑顔で前向き積極的に取り組む姿勢が素晴らしい。新人職員の模範。
・挨拶声が大きく職場が明るい。素直さがあり「わからない」と言える。教えがいのある人柄。
・接客業なので自分のおしゃれを貫こうとする所が社会人として心配。指導も聞き入れない。
・礼儀やマナーがしっかりしている。
・言葉遣い挨拶は丁寧だが自分から発信するタイプではない。自主的に行動することはない。
・元気で前向き、すでに第一戦で活躍し大事な戦力となっている。
・パソコンスキルも高く何事にも興味を示し一生懸命である。
・意欲的に業務に取り組んで目標達成意識も高い。仲間と協力し業務を遂行できる。
・コミュニケーションが苦手だが前向きに仕事を覚えようと協力している。
・指導したことに対しては肅々と取り組んでくれている。
・OTT制度を採用し丁寧な指導を繰り返しているが達成できない仕事が多い。今後に期待。
・書類の作成、処理が丁寧。冷静で落ち着いて対応できている。
・失敗を恐れず素早い行動力。仕事の覚えも早く一人前になるまで早かった。
・明るくチームのムードメーカー。行動力があと一歩だが真摯に業務に取り組んでいる。
・同期社員だけでなく幅広い年代の社員とも親交を深めている。挨拶も目を見て笑顔で対応。
・勤怠、業務姿勢とも見本。人見知りだが来年再来年と良き先輩となることを確信。
・素直なので教えたことの覚えが早い。質問もして意欲的に取り組んでいる。
・本人の成長を願い日々練習とアドバイスを重ねているが改善に向けた行動意欲が乏しい。
・大学で学んだこととは違う業務が多いが覚えが早く積極的に取り組み頼もしい。
・素直で人柄がよい。講習会にも参加し自身のスキルアップを図っている。
・対人対応スキル保有、PCの基本操作能力は十分で活躍している。
・報、連、相などの基本がまだ身につけていない。これからに期待。
・挨拶、電話対応等基本的マナーは備わっている。知識経験を積みさらなる活躍を期待。
・文字も綺麗で作業も丁寧。おとなしいが受け答えははっきりしている。提案力が乏しい。
・指導、教育を受けた内容の理解力・記憶力がほかの社員と比較して低い。
・遅刻、早退、欠勤もなく勤務態度良好。疑問があれば先輩社員に積極的に質問する。

6.大学に要望すること(大学で指導してほしいこと、学生に身に付けてほしいこと 等)
・自主性・自立心・自ら考えて行動する力を身に付けてほしい。
・コミュニケーション能力、やる気がある方であれば歓迎。
・パソコンスキル、ソーシャルスキル、プレゼンスキル、職業観について就職活動を進める。
・学生時代にしかできないことを全力で取り組んでいただければ。
・学内だけでなく学外の人とも接点を持つ機会を授業で設けてもらいたい。
・自ら考え行動し課題発見・解決していく能力をつけてほしい。
・受け身の授業だけでなくディベート講義等を増やし自分の考えをしっかりと発信できる人材を育成してほしい。
・インターンシップや見学会などリアルな機会をたくさん活用してほしい。ネットの情報が全てではない。
・礼儀、基本的マナー、言葉づかいを入社前から身に付けておくことと仕事がしやすい。
・ストレス耐性必須。報連相の中で自分の言いたいこと、知りたいことを整理して伝える能力。
・対価を受けている以上「社会人としての責任」が発生するということへの認識。
・わからないことをそのままにしない。挨拶、質問、対話の大切さ重要性を理解する学生が増えるといい。
・敬語が使えない場面があり苦労しているので対話力を身に付けてほしい。チームで成し遂げる力も必要。
・主体性をもって物事に取り組む意識と行動力。
・人前で話す機会を作ってほしい。ただ話すだけでなく人に伝えるように話す意識をもってほしい。
・積極的に挑戦し実際にやったり見たり行ったりの経験を重ねてほしい。コミュニケーション能力のUP。
・学業はもちろんだが、仲間と協力して何かを成し遂げるための努力や楽しさを経験してほしい。
・朝礼などの集団時の伝達事項が伝わらないことがある。聞く姿勢、質問できるように。
・対話力、雑談力、課題解決力を身に付けてほしい。
・返信用封筒の出し方、書き方の指導。
・学生と社会人の考え方の違いと挨拶礼儀マナーの重要性を学生時代から学習し意識づける。
・教えられたことを覚え実践するという基本的なことを繰り返し学習してほしい。

7.来年の求人について
・例年通りの求人。
・営業職と製造食を募集予定。OB.OGがいるので安心して見学に来てほしい。
・引き続き地元 학생を中心に採用したい。
・自ら考えて行動が出来、前向きで柔軟な考え方の人を求めます。
・事務職、技術職、営業職、デザイナー職を募集。
・ぜひ貴校の優秀な学生さんを採用できればと考えています。

8.卒業生からの声
・やりがいのある職場でぜひ後輩にも続いてほしい。
・優しい方が多く毎日楽しい。
・この会社をもっと早く知りたかったので呉東方面にプラスして南砺市の求人情報も出してほしい。
・資格試験等の勉強は大変だが人とのコミュニケーションが好きな人は金融に興味をもってほしい。
・学生から社会人となり不安が大きかったがよい先輩上司に恵まれ充実した社会人生活を送っている。
・製造部で自社製品について学んでいる。「親しき中にも礼儀あり」を意識して毎日仕事に取り組んでいる。
・電話対応やお客様対応など社会に出て活かせるようなことを学びたかった。
・慣れてきたところで特に問題なく働けている。
・少しずつ仕事に慣れてきたところで困ったこともなく働けている。
・慣れないことも多く大変だがやりがいもある。先輩方も親切で働きやすい環境で楽しく過ごしている。
・社会人として常識、心構え、顧客心理の研修でビジネス実務の授業やゼミで学んだことが役立っている。
・慣れない未知の業界ですが日々頑張っている。
・就職活動は大変だと思いますが焦らず頑張ってください。
・Excelや電話対応など学生時代しっかり勉強していれば問題なし。授業で習ったことがとても役立つ。
・死ぬ気でもがいています。大学時代が恋しいです。
・学校での企業説明会の縁があり現在も楽しく働いています。
・パソコンスキルを大学時代に身につけられたことがよかった。英語をもう少しがんばればよかった。
・コミュニケーションに関する授業では「聞くこと」に重きをおいて学んだ。店舗で接客するときに活かしている。
・経営情報学科で学んだビジネスの授業が今に活かしている。
・大学で身につけた視野を広くする経験が今に活かしている。
・社会人としてのマナーは学生時代と全く違うことに最初は大変だったができることが増えてやりがいがある。
・社会人として基礎から実践的な対応を学べたことまで、先生方の熱心な指導に感謝している。
・ゼミで磨き上げたコミュニケーション能力を活かし接客等に日々努力している。
・簿記経済学エクセル等社会人として今活かしている。接客の際も秘書やゼミで学んだことが役立っている。
・パソコン操作やエクセル作業など学生時代の学びが活かしている。勉強してきてよかった。
・エクセル、ビジネスマナーを学んでいてよかったと入社して何度も思った。電話対応も必須だった。
・事務の仕事をしているので講義で教わったことが活かしていると感じる。
・挨拶や基本的なマナーはどの場面でも重要なのでとても役立っている。
・入社して一つの作業をやっていたが最近は新しい作業をやり始めた。新鮮な気持ちで頑張っている。
・パソコン授業があったので初めてのパソコンでも苦戦することなく使用できた。
・パソコンスキルやビジネス敬語、マナー等を深く学ぶことが必要。積極的に取り組み姿勢が一番大切。
・仕事にプレッシャーを感じることも多いが学生時代に味わうことのできなかつた達成感ややりがいを感じる。
・学生時代に身につけた知識を試行錯誤しながら日々学び続ける毎日です。
・自己分析しながらやりたいことや大切な部分を明確にしておくとい。自分で納得できるような就活を。
・異なる世代や部署との交流が多くいつも賑やかな職場である。
・学校で学んだマナーや言葉遣いは実戦で役立っている。
・日々〇〇部門で技術を勉強している。これからもがんばります。